

健康
ぶらざ

ふくびくうえん

副鼻腔炎

—ネバネバの鼻みずが出たら要注意—

国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科学 教授(代表) 岡野 光博

企画：
日本医師会

No. 598

副鼻腔炎とは

副鼻腔炎とは、鼻腔の周りにある副鼻腔という空洞に炎症が起こり、粘膜が腫れたり、粘液がたまる病気です(図)。多くの場合は風邪を引いた後に起こります。炎症が慢性化すると、鼻茸^{はなたけ}というゼリー状のポリープができることがあります。慢性化した副鼻腔炎として、従来型の蓄膿症^{ちくのうしょう}タイプに加えて、好酸球性副鼻腔炎というタイプが増加しています(表)。

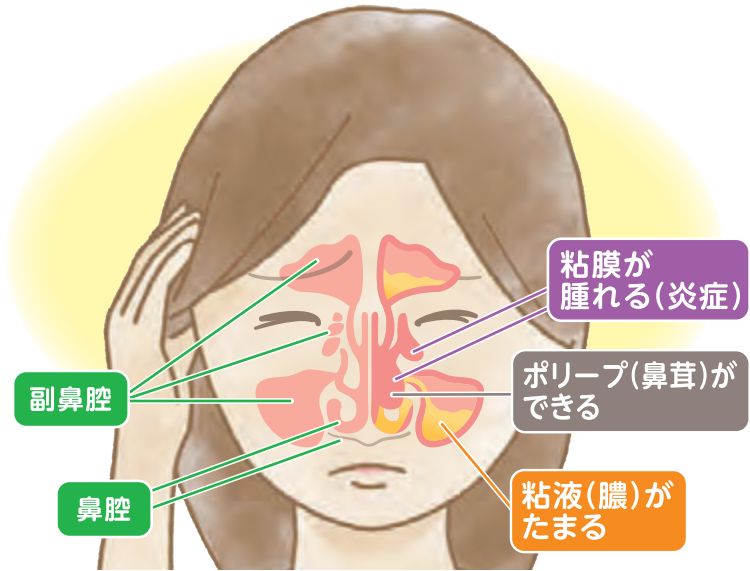


図 鼻の構造と副鼻腔炎

表 慢性副鼻腔炎の2つのタイプ

	従来型の副鼻腔炎(蓄膿症)	好酸球性副鼻腔炎
なりやすい年齢	すべての年代	20歳以降
主な症状	鼻づまり、鼻みず、後鼻漏	鼻づまり、匂いの低下
炎症が起きやすい場所	ほおの奥	鼻の根元や目元の奥
鼻みずの性状	膿っぽい	黄色くネバネバ
鼻茸	片側または両側 単発	両側 多発 匂いを感じずる場所(嗅裂) ^{きゅうれつ} に できやすい
合併しやすい病気	気管支炎	気管支喘息 解熱鎮痛薬のアレルギー

(Fujieda S. et al. Allergy International 2019; 68, 403-412 を参考に作表)

主な症状

主な症状として、頭痛や顔の痛み、鼻づまり、鼻みず、後鼻漏^{こうびろう}(鼻みずがのどに落ちてくる症状)、匂いの低下などがあります。急性の場合は発熱を伴うこともあります。疲れ、だるさ、睡眠障害、集中力の低下なども見られ、勉強や仕事にも影響が出ます。アレルギー性鼻炎・花粉症と症状が似ていますが、副鼻腔炎では、くしゃみが出ることは少ないです。

治療

治療は、副鼻腔炎のタイプによりますが、いずれも生理食塩水などによる鼻の洗浄が大切です。急性期であれば抗菌薬やステロイドなどを服用します。慢性期で、従来型の蓄膿症タイプであればマクロライド系の抗菌薬を、好酸球性副鼻腔炎であれば抗炎症薬などを、それぞれ服用します。鼻みずを吸引して鼻の通りを良くする処置や、薬液を霧状にして鼻から吸入する治療も有効です。これらの治療で良くならない場合は、手術で副鼻腔を大きく開放して空気の通りを良くします。それでも良くならなければ、生物学的製剤という新しい薬の使用を検討します。鼻の症状が長引いて気になる時は、耳鼻咽喉科を受診して、適切な診断と治療を受けましょう。

